

# 森づくり サポーターニュース

県営都市公園  
びわこ地域市民の森

びわこ地球市民の森(森づくりセンター) 〒524-0102 滋賀県守山市水保町2727  
TEL:077-585-6333 FAX:077-585-6312  
biwako@moridukuri.info <https://www.moridukuri.info>

Vol. 86

令和5年9月20日号

## 里の森ゾーンにおける森づくりの特長について (2)

里の森ゾーンの面積は5ゾーンで一番大きく12.9haあります。旧野洲川南流跡ですから細長く、上流の出会いのゾーンから2／3位までは南東から北西に向かい、森づくりセンター(以下、センター)、芝地、タマリあたりから折れて、下流(北)のふれあいゾーンへ向かっています。幅は200m程と広く中央に水路を新たに通し、県道側(東)に幹線園路1本と支線園路1本、市道側(西)は林の中に3本の支線園路を通すなどして、植樹地には多少の起伏を設け里山的な平地林を形成しています。

隣接するゾーンとは陸橋で繋がれ、小高く丘のようになっています。陸橋までの盛土と地域の2か所のお墓周りは法面(斜面)植栽になっています。この森の陸橋から森や地域を広く見渡すことができます。特にふれあいゾーンに向かう場所は、旧野洲川南流跡地の堤防を残しており、河畔林だった大エノキの雄姿も見られます。

里の森ゾーンは2008年～2013年に植樹され、10年～15年経ちました。樹齢は12年～17年になっています。河畔林中心のふるさとゾーンを除く造成した4つのゾーンでは、一番最後に植え終わったゾーンです。樹種はクヌギやコナラ、アラカシなどのブナの仲間、ケヤキ、ムクノキ、エノキ等のニレの仲間にヤマザクラ、ヤマモミジ、センダン、カクレミノ、ヤブニッケイ等々が植えられ、栽培種のクリやヤマモモ等、食味できる木は比較的集めて植えられています。

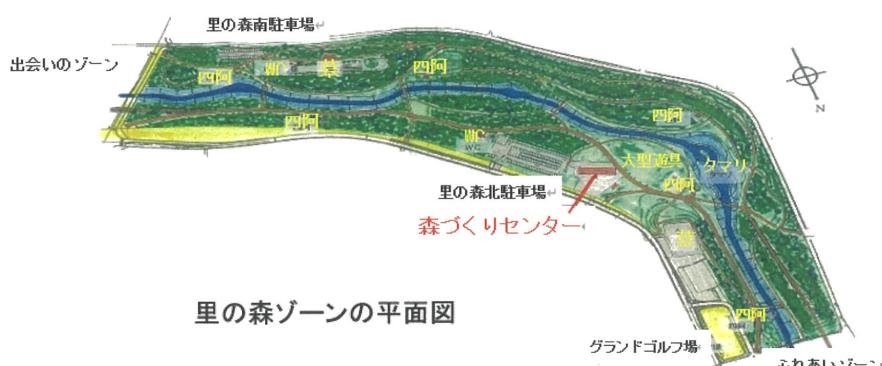
このゾーンは、『森の環境学習フィールド』(四季の花や緑、木の実があり昆虫や鳥が集まる森の観察フィールド)というテーマを設定しました。その上で里山的な森づくり(花木、木の実、昆虫)、森の生態系の観察・学習の場づくり、水辺景観(水路・ワンド)づくり、センターの設置等を方針に進められました。新たに花木を植える計画もあります。まだまだ間伐を進めて木々を大きく生長させ、豊かな生態系の森にしていかなければなりませんが、既にセンターから一番近い森が観察フィールドとして来園する皆さんに喜んでいただいていることを大変うれしく思っています。



並行した3本の支線園路の内、中道と四阿



木々の中をふれあいゾーンへ  
(左に大エノキが見える)



里の森ゾーンの平面図

# 森守こどもサポーター キックオフイベント

活動予定日  
11/25(土)  
2/11(日)  
14:00~16:00



2023年8月11日(金)の山の日に、びわこ地球市民の森で新しく発足した、子供達が楽しみながら森を守る活動をする「森守こどもサポーター」のキックオフイベントを実施致しました。



株式会社みらいもりやま21代表取締役  
社長鶴重樹から赤いキャップを授与されました。



守山市の森中市長にもお越し頂き、びわこ地球市民の森がいかにして森づくりサポーターの手によって創られてきたか、お話を頂きました。



小林悦子講師によるグループワーク  
「ヘリウムリング」を行いました。



平塚所長より森についてのお話と、作業についての説明がありました。間伐(木を切る)作業をしました。こぎりで木を切るのは大変です。



間伐材(山桜)の利活用でモリックを楽しみました!!大いに盛り上がりました。真剣な表情ですね。



平塚所長より  
「森守こどもサポーター認定証」が授与されました。

## 第2回森づくりサポーター活動 <育樹活動&自然教室> 開催!

令和5年7月20日(木)、梅雨が明け夏の日差しが差し込む中、第2回森づくりサポーター活動の育樹活動が開催されました。

当日は、森づくりサポーター86名の皆さんが出発し、平塚所長の開会あいさつと作業内容の説明のあと、出会いのゾーンに移動し、前回に引き続き平成18年から20年に植樹した森の間伐、枝払い作業を行いました。現地は、クヌギやコナラ、カツラやアベマキなど数多くの樹種が育成し混みあっていましたが、間伐や枝払い作業により、森の中が明るく風通しが良くなりました。またお昼の食事の引き換えにクラフトに使う小枝をお願いしたところ、大小様々な形のものを皆さん一生懸命作成していました。



開会式の様子



平塚所長あいさつ



間伐作業



間伐作業



枝払い作業



枝払い作業



小枝作成作業



小枝作成

自然教室は、7月22日(土)、真夏の太陽が照り付ける晴天のもと、森づくりサポーター8名、ガールスカウト17名、計25名の皆さんが出発し、平塚所長から活動内容の説明のあと、まず里の森ゾーンで間伐や枝払い作業を行いました。初めてノコギリを持つ子もいましたが、うまく伐採できた時は歓声を上げていました。つづいてセミナールームに戻り、江見先生の指導のもと、竹の棒を使って「正三角形6-2(シックス・ツー)」という正三角形を一つずつ減らしていくゲームで頭の体操をしたあと里の森ゾーンで自然観察を行いました。イヌシデやコブシの実、センダンの葉の形やヤブニッケイの香りなど皆さん汗だくでしたが熱心に観察していました。また今回から森づくりサポーターのうち新しく登録された森守こどもサポーターが4名参加し、初めの自己紹介では少し緊張気味でしたが、一生懸命活動をしていました。



開会式の様子



森守こどもサポーター自己紹介



間伐作業



枝払い作業



正三角形6-2ゲーム



自然観察



自然観察



自然観察

育樹活動、自然教室とも、最後に簡単な食事をとり疲れも少し癒された感じでした。  
参加していただきました皆さん、ありがとうございました。次回のサポーター活動はびわこ地球市民の森のつどいと併せて実施しますので多くの皆さんのが参加をお待ちしています。

# 「森守こどもサポーター」と 「森づくりサポーター」

「未来の子どもたちのために」はじめられた「森づくり」も、  
その「こどもたち」がこれから森づくりに関わります。

「森守こどもサポーター」は、私たちの世代では完了しない「森づくり」を、世代をこえて引継ぐための組のひとつで、「おじいちゃんおばあちゃんが、孫たちとの遊びの中で、ルールや知恵を授けてきた」ちょっと昔の家や地域の仕組みをイメージしています。



「森守こどもサポーター」の活動



「森づくりサポーター」の活動



環境教育の力は、これから社会で活躍する子どもたちで、子どもたちが、森での体験や自然とのポジティブな関わりを家庭や地域で発信することで、その親世代・現役世代へ環境への意識が伝わることを期待します。

「2001年の植樹のつどい」から始まった「森づくり」は、植えて広げる「植樹」から、除草・枝打ち・間伐して育てる「育樹」が主体となり、並行してこれからは、資源としての森・フィールドとしての森を「つかう(利活用)」ことが重要となります。

## 未来の子どもたちの森をつくっています

## 「びわこ地球市民の森」の森づくり

「森」の使い方、素直で発想豊かな  
子どもたちも提案してほしい!

おしらせ

## ～びわこ地球市民の森のつどい2023 ならびに第3回森づくりサポーター活動のご案内～

森のつどいは昨年度に引き続き、今年度も秋に開催し、併せてサポーター活動を実施します。

秋も深まり紅葉の時期を迎える絶好の季節です。

多くの皆さんをご参加をお待ちしています。

開催期日 令和5年10月29日(日)

開催場所 びわこ地球市民の森(里の森ゾーン)

活動内容 自然とふれあいウォーク、体験ブース活動等



### 森のデータ

森の面積	42.5ha
森の延長	3.2km
森の幅	100~200m
植樹面積	80,808m <sup>2</sup>
植樹期間	H13~H25
植樹活動参加者数	45,994人
植樹本数	160,967本
森への利用者数(R4)	241,551人
森づくり活動参加者数(R4)	3,418人
うち育樹活動参加者数(R4)	2,549人



今年の夏は、猛暑、酷暑の名のとおり連日真夏の天候が続き、森の木々も自己防衛で先端部の葉が枯れるなどの現象が見られました。しかし、この暑い中でもサポーターの皆さんは、森の中での作業や森のつどいでの出し物の作成など熱心に活動をしていただきました。ようやく秋本番を迎え、10月29日には最大のイベント「森のつどい」が開催されます。皆さんのご協力をよろしくお願いします。